

科目区分	専門教育科目	科目名	介護実習5		科目コード	17F660	担当者	荒木 正平、植木 明子、 田川 千秋			
対象学生	介護福祉士コース2年生	学期区分	前期	単位数	3	卒業要件	必修				
						免許・資格要件	介護福祉士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
実習区分（Ⅱ）の実習を終結する段階である 実習4に引き続き、同一施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）において、情報収集・アセスメント、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正を行う。一連の介護過程の展開に関する、これまでの学習全てを総合した介護実践力を習得する実習期間となる。						1. 「尽心」 誠実な人柄と 人間力	2. 「創造」 高度な知性と 創造力	3. 「実践」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性 ・ 真摯性	② 多 様 性 ・ 協 働 性	③ 知 識 ・ 技 能	④ 表 現 考 ・ 創 判 造 断 力	⑤ 実 主 行 体 力 性 ・ 自 立 性	⑥ 就 業 力 ・ 貢 献 力
1.	介護計画の立案・実施・評価・修正といった、一連の介護過程を実践する。					◎	◎	○	◎	◎	○
2.	チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。					◎	◎	○	◎	◎	○
3.	介護福祉士の業務の実践に必要な、自己研鑽や研究的態度を理解する。					◎	◎	○	◎	◎	○
4.						◎	◎	○	◎	◎	○
5.						◎	◎	○	◎	◎	○
授業方法						成績評価の方法と割合					
学外実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設のいずれか一つに、15日間の実習である） ※原則、実習4と同一施設にて実施する						受講態度（40%） 提出物（20%） 実習先の評価（20%） 実習の記録（20%）					
準備学修						課題等への対応					
1) 実習の意義・目的を理解する。（授業前後の学習としては30～40分程度） 2) 実習施設の概要、主な業務など施設についての基礎知識を習得しておく。 3) 受け持ち利用者の基礎疾患、ADL状況に対する事前学習をして実習に臨む。 4) 実習に必要な介護技術や利用者理解のための知識を習得しておく。 5) 福祉関係法規の理解 など						実習中の学生の学習状況等に応じ、巡回教員は個別での助言指導や相談対応をこまめに実施する。					
授業計画											
<p>(1) 介護計画を実施する。 ※実習4と実習5で利用者の状況が変化している場合は、再アセスメントを行い、計画を再度立案する。 ・具体策を安全・安楽・自立を考慮して実施する。 ・具体策を実施しながら利用者の反応を観察する。 ・利用者のその日の状態に応じて計画を修正して実施する。 ・実施結果について記録し、指導者に報告する。</p> <p>(2) 実施した介護計画の評価と修正を行う。 ・実施結果を整理し、短期目標を評価する。 ・目標の達成度から一連の介護過程を振り返り、考察を行う。</p> <p>(3) 介護福祉士としての立場を認識した行動をとる。 ・担当利用者のアセスメントを通し、チームワークの具体的なあり方を学ぶ。</p> <p>(4) 展開した介護過程を振り返り、その意義を理解する。 ・利用者の安全、安楽、自立を目指して介護過程を展開する。 ・関連ある文献の検索について理解する。 ・実施した介護の過程を反省的に振り返り、事例研究の実施に向けてまとめの報告を行う。</p>											
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
新・介護福祉士養成テキスト 「介護総合演習」中央法規出版						一連の介護過程（情報収集・アセスメント、介護計画の作成、実施後の評価、計画の修正）を実践します。短期間での実施となりますが、慌てすぎて利用者の想いをないがしろにすることがないように。一つひとつのプロセスを理解しながら学習を進めましょう。					